

全道各市の連結赤字実質比率の状況

(単位:百万円、%)

順位	市名	一般(普通)会計収支額	病院会計収支額	その他の会計収支額	全会計の連結収支額	標準財政規模(臨財債含む)	連結実質赤字比率
1	夕張市	34,959	241	1,075	35,793	4,671	766.2
2	赤平市	23	2,591	1,111	3,725	4,917	75.7
3	室蘭市	1,274	1,077	13,853	13,656	23,747	57.5
4	留萌市	162	2,117	320	2,275	8,034	28.3
5	網走市	44	-	3,224	3,180	12,889	24.6
6	美唄市	33	2,028	230	1,765	9,196	19.1
7	釧路市	156	2,291	6,831	8,966	48,632	18.4
8	小樽市	1,184	4,320	351	5,855	32,348	18.1
9	苫小牧市	582	433	6,806	6,657	37,041	17.9
10	北見市	115	114	2,466	2,465	33,622	7.3
11	根室市	120	280	369	529	9,537	5.5
12	深川市	215	1,185	473	497	9,764	5.0
13	歌志内市	164	18	88	94	2,498	3.7
14	士別市	376	821	239	206	9,764	2.1
15	函館市	460	1,067	350	257	72,264	0.3
16	石狩市	106	-	9	115	15,208	-
17	三笠市	79	459	495	115	5,023	-
18	北斗市	356	-	57	413	11,411	-
19	紋別市	100	-	269	369	9,147	-
20	旭川市	1,710	2,281	403	4,394	81,016	-
21	帯広市	297	-	1,836	2,133	39,267	-
22	稚内市	131	642	510	1,283	12,652	-
23	伊達市	440	-	610	1,050	9,996	-
24	江別市	753	46	1,941	2,648	23,886	-
25	滝川市	385	876	58	1,319	11,715	-
26	北広島市	334	-	1,188	1,522	11,787	-
27	恵庭市	175	-	1,658	1,833	13,142	-
28	登別市	767	-	868	1,635	10,982	-
29	名寄市	320	960	668	1,948	11,320	-
30	岩見沢市	737	3,324	513	4,574	24,708	-
31	芦別市	14	775	515	1,304	6,573	-
32	富良野市	166	-	1,439	1,605	7,857	-
33	千歳市	645	1,141	2,718	4,504	19,474	-
34	砂川市	267	4,419	19	4,705	6,373	-

総務省公表の平成18年度決算速報数値に基づき、当市が独自試算したものであり、新聞報道等と異なる場合があります。また、控除される赤字分(初期投資がかかる下水道事業や売却収入を見込める土地造成事業など)については、算定方法が明らかになっていないので考慮していません。なお、本表は政令指定都市(札幌)を除いています。

新たな地方財政判断基準とは・・・

どうなってるの？ 留萌市の財政

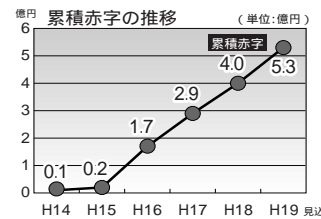
12月7日、総務省は自治体の財政状況が健全かどうかを判断する4つの指標に対する基準を示しました。この指標は、留萌市の財政にどのような影響を与えるのでしょうか。

財政指標	判断基準		留萌市の状況 平成18年度決算 (当市試算による)	
	早期健全化団体 自治体が健全化計画を策定し自主再建	財政再生団体 国や道の管理下で財政再生計画を策定し再建		
実質赤字比率	一般(普通)会計の実質赤字額の標準財政規模に対する比率	11.25～15%	20%	黒字につき該当なし
連結実質赤字比率	全会計の実質赤字額等の標準財政規模に対する比率	16.25～20%	(1) 30%	28.3%
実質公債費比率	一般(普通)会計の借入金返済や特別会計に対する借入金返済のための繰出金などの標準財政規模に対する比率	25%	35%	18.0%
将来負担比率	公営企業、出資法人等を含めた一般(普通)会計の実質的負債の標準財政規模に対する比率	350%	-	306.4%

1 経過措置として、平成20年度～21年度は40%、平成22年度は35%となり、平成23年度以降は30%となります。
 ■標準財政規模 留萌市における標準的な市税や地方交付税などの歳入(一般財源)の規模。(平成18年度は約80億円、臨時財政対策債含む)
 ■控除される赤字分(初期投資がかかる下水道事業や売却収入を見込める土地造成事業など)については、算定方法が明らかになっていないので考慮していません。

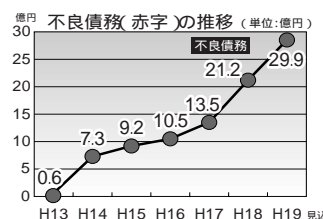
下水道会計 H18赤字額 4.0億

下水道は、まだ整備途中にあり、建設費などに伴う『地方債の発行(借金)』が続いています。水洗化率も82.3%と低い水準に止まっている中で、多額の借入金返済が経営を圧迫しています。



市立病院会計 H18赤字額 21.2億

度重なる診療報酬の減額改定と派遣医師の引き上げに伴う診療体制の縮小で、医業収益が急激に減少し、不良債務は急激に増加し、H18年決算では21億円を超え、H19決算には、約30億円に迫る見込みです。



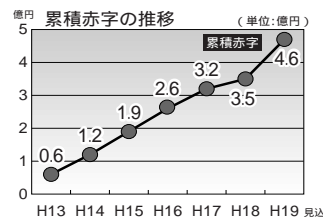
一般会計

一般会計については、国の景気対策に歩調を合わせ、道路や港湾、公営住宅といった公共事業を進め、さらに美サイクル館の建設、学校の建替えやは一とふる、ぶるもといった、懸案となっていた大型事業も短期間に集中して実施しました。

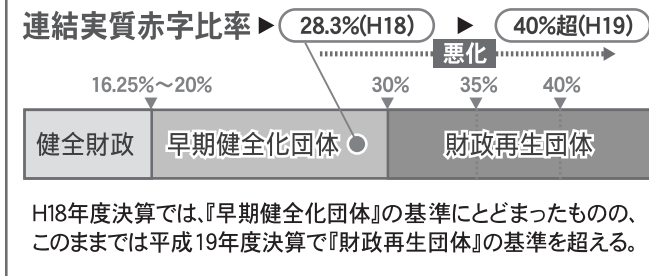
これにより借入金返済が多額となり、収入が減少する中で財政を圧迫し、各特別会計の赤字を解消するほどの財政支援を出来ない状況にあります。

国民健康保険会計 H18赤字額 3.5億

保険料はH18年度に税率改正し5千万円の増収となったものの、保険給付費の伸びが上回り、収支改善が見られない状況です。1人あたりの保険給付費は全道都市の中で上位となっています。



このままでは財政再生団体に?!



新たな地方財政判断基準と留萌市の状況

夕張市の財政破綻を受けて、国は「地方公共団体財政健全化法」を成立し、平成20年度決算より一般会計以外の財政状況も反映した4つの指標(上表)の比率により、自治体の財政状況を判断することとなりました。

留萌市の平成18年度決算は、一般会計において1億6千万円の黒字でしたが、全会計での連結赤字は22億8千万円となり、連結実質赤字比率は、早期健全化団体に該当する28.3%となりました。

平成19年度決算では、病院事業

お問い合わせは、市財務課42・1813まで

これからの留萌市は

財政再生団体への転落を回避するには、早急に多額の赤字を抱える病院事業の経営改善を図らなければなりません。地域医療を守りながら、病院経営を改善させるには、相当の時間が必要となります。そのため、現在9億円ある社会福祉や公共施設整備などの特定の事業のために積み立てている基金より借入れをすることなどで病院事業の赤字を15億円圧縮するとともに、全会計においても、人件費の削減をはじめとした、これまで以上の経営改善に取り組み、市民の皆様の協力を得ながら、連結赤字の圧縮し、比率の引き下げを図り、財政再生団体への転落を回避しようと考えています。

なお、具体的な取り組み(素案)が決まりましたら、皆様にお知らせします。